



1 事前にチョークで書かれた枠を外れないように塗っていく。2 「色の三原色」で色の組み合わせを説明。3 ペンキを受け取り大興奮の子どもたち。4 貴重な体験に顔がほころぶ。5 ボランティアで参加した大学生と女子トークに花を咲かせながら作業。6・7 久々のイベントで親子の絆を深める。8 ベースと絵の境は慎重にペイント。9 参加者のスーパーハッピーな雰囲気を感じ取り、隣の周囲の参加者へ歌と踊りを披露。10 失敗を恐れず大胆に塗っていく子どもたち。11・12 子どもたちのペイント後は関係者とボランティアスタッフでペイント。13 最終仕上げはミヤザキさんが担当。



参加した子どもたちに聞いた 「Super Happy Train Project を終えて」

船原 恵麻 さん  
伊方小学校 4年生

**見た人に元気を与える列車に**  
昨年行われる予定のこのプロジェクトに参加を希望していましたが、コロナの影響で中止されとても残念でした。今年実現されたイベントに参加でき、本当にうれしかったし、みんなが協力して作った列車が、見た人に元気を与えたり、気持ちを明るくするような姿になってほしいです。



田村 裡音 さん  
弁城小学校 6年生

**思い出が形になるワクワク**  
卒業記念として参加したこのプロジェクトで友達と一緒に電車に色を塗るといふ小学校最後の思い出ができてうれしく思います。また、友達との最高の思い出が本当に動く列車になって福智町を走るといふとワクワクします。まだ、列車の全体を見ていないので完成が楽しみです。



池田 翔音 さん  
金田義務教育学校 6年生

**友達との絆深めたプロジェクト**  
コロナの影響で楽しみにしていた学校行事がほとんどなくなり思い出を残す機会が少なかったけど、このイベントで友達との絆を深める最高の思い出が作れたので参加してよかったと思います。コロナが早く落ち着いて、こんな楽しいイベントがたくさんできるようにしてほしいです。



目の前に広がる電車のキャンパスに  
いよいよ参加者約140人が筆を入れていきます。  
実働する電車に自分が色を塗るといふ、一生に一度  
あるかないかの特別な体験の瞬間を振り返ります――。

ペイント  
**PAINT**

1筆ずつ、それぞれの願いが重なるとき

「一人ひとりの色彩響き合う  
「Super Happy Train」が誕生

おおよそ30分のワークショップを終え、いよいよ子どもたちお待ちかねのペイント作業が始まりました。安全対策のヘルメットと塗料の付着を防ぐレインコートを装着。今から電車をペイントしていくという高揚感で子どもたちは胸を膨らませていました。

塗り方の要点をミヤザキさんから学び、ペイント作業がスタート。子どもたちは、それぞれが好きな色の塗料を選び、ミヤザキさんが事前に書いた下絵の花や虹に彩りを加えていきました。すると、先ほどまでのにぎわいから一変。参加者たちは、動く列車に色を塗る特別な体験に心を弾ませながらも、地元にも夢と希望を届ける列車を創り上げるという使命感をもちながら「はみ出ないように、色のむらがないように」と、慎重に塗り進めていきました。

子どもたちとの作業は、プロジェクト初日から2日目の午前まで実施され、ミヤザキさんは「予想を上回るスピードと丁寧さでした」と絶賛。さらにワークショップで参加者が考えた福智町の原風景がミヤザキさんの手によって加えられ、世界に一つだけの「最高にハッピーな電車」が完成します。